

開催地名	大阪府大阪市
開催日時	令和5年10月9日（月） 13:45 ～ 15:15
開催場所	すみのえ舞昆ホール
語り部	草 貴子 （宮城県仙台市）
参加者	自主防災組織、防災リーダー、地域住民等 98名
開催経緯	大阪市住之江区は、川と海に面しており、台風・河川氾濫などの風水害や、南海トラフ巨大地震などの被害が想定される場所である。 災害時に一人一人が助かり、みんなで助かるために、日常からの「備える防災」を意識した地域の防災力を高めることをめざし、地域住民を対象とした防災セミナーを開催するに至った。
内容	【講演テーマ】 ～私の3.11と明日の備え～ （１） 紹介(市名坂東町内会) 宮城県仙台市泉区にある市名坂東町内会は、加入数186世帯、今年で16年目を迎えている。役員9名が全員女性であること、設立2年目に集会所建設の為に銀行にローンを組んだことも、仙台市では初めてのことである。そんな集会所は災害時の事も考え、ライフライン復旧は電気が早いと想定し、オール電化。対面キッチン、トイレに汚物を入れる黒いゴミ袋＋凝固剤、お子様連れも来やすいように絵本やおもちゃなど、主婦目線で用意している。 身の丈にあった町内会、オリジナリティーのある町内会、そして、女性であってもひるまず、街をつくる為に人が集まる場所がなくてはならないと考え、銀行にローンを組んでまでも集会所建設にこだわったのは、そんな思いもあるからである。 （２） 東日本大震災について 買い物をしていたところ大きな揺れに遭遇、自宅に急いで戻る途中に、集会所の隣の公園に、町中の方々がぞろぞろ集まっている光景が見えた。集会所を開け、約100名避難してきたところ、外は吹雪となった。指定避難場所は2km先の小学校。移りたい人には移動の指示を出すも、強い余震もあり、皆さんこのまま集会所での待機を選択された。その後は4名の役員で段取り、会員も会員ではない人も受け入れ、避難者の中からリーダー・副リーダーを決め、町内会はサポートと言う形で運営していった。顔見知りではない方も多く、毎日、午前・午後にコーヒータイムを設け、交流を図るなども行った。

各自が持ち寄った材料で調理するなど、また学生も何か手伝いをしたいと言ってくれ、寺子屋という形で子供たちの勉強を見てもらうことをお願いした。

思いがけない優しい行動、嬉しい言葉をかけてくれる人がある一方、自分の権利主張ばかり言う人もいる。トイレ清掃当番表を作成した途端に自宅に戻る人。地震のせいで子供がパニックになり、勉強ができないと訴えてくる人。女は黙っている、炊き出しをしていると恫喝する人。テンションの高い中、言動は様々で、小さな事の積み重ねで、人の心や今までの関係性を壊してしまうこともある。今でもどうしたら良かったのか答えが出てない事もある。どんな災害よりも、非常時に垣間見える本来の人間性が一番怖い。頭で考える前に口から出てしまう言動は控え、その後の事を考えて発言、行動していただきたい。

(3) 大震災を経験して

町内会では、避難所も解散し、今後の改善点で町内会に未加入者をどうしていくかが課題となった。街づくりは人づくり、人と人との繋がりが大事と感じ、未就学児を持つ母子を対象に子育て支援「ずんだっこ」を週1回開始した。3人で始めた「ずんだっこ」も年間1,500名も利用してくれるようになった。また町内会のお祭りも、防災訓練等も行いつつ、3種類のお国自慢鍋や餅つきなども行い、関わりを深めていくのに役立った。

地域では、市名坂小学校区避難所運営委員会を20の団体と共に発足し、負担金を頂ながら運営をしている。班構成では、女性コーディネーターを設け、女性の視点を大切にしている。相談しづらい部分にトイレがある。特に男性と比べ、女性は尿漏れ、生理など問題も多い。プライドを傷つけない為にも女性コーディネーターが細やかな配慮で、対応していくことが期待されている。

そしてあれから12年経ち、自助・公助への考え方も変わってきた。やってもらって当たり前ではない。役所だから、役員だから、決められた人だけで乗り切れるものではない。当事者意識が本当に大切である。

(4) 防災と減災について

整理整頓、食品の食べ残しをやめる、洗濯物をため込まないなど、出来ることをやっておくだけでも、防げるものがある、被害を減らせるものがある。離乳食、アレルギーがある方などはその準備、インスタントコーヒーやティーパックも張り詰めた状況の中で、ほっとした時間を過ごすことができる。避難所は自宅でもないし、ホテルでもない。避難してきた直後より、時間が経つにつれて、目に見える誰かの行動も気になっていく。誰かと一緒に過ごす安心感は大きいですが、快適ではない避難所を前提に、来るべく時の備

えを自分から行っていただきたい。

(5) まとめ

多くのモノを失ったが、多くのモノを得たのも事実。規則、訓練、備蓄も大事だが、一番大事なのは「心」。これからどう生きていくか、恥じない生き方をしていって欲しい。

また地域防災で大切なことは、自分たちの特性を考え、オリジナリティーのある、身の丈にあったものを実践していくことである。そして健康な体を維持し、自分の為、大切な人の為に、防災・減災活動を継続していただくことをお願いしたい。



開催地より

東日本大震災の経験から、避難者による避難所運営の大変さや共助の重要性などをお話しいただき、震災に対する具体的なイメージを参加者に深めてもらうことができたと思う。災害への備えの必要性についての一人一人の意識を向上させ、地域の防災力を向上させるための啓発活動を今後も継続して実施していきたい。